組織現勢（6月1日現在）

組合員数	19,912人
出資口数	94,278口
5月の新規加入	28人
5月の増資口数	117口

No. 383　再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
本部事務局　大田区大森東4-6-15-101
TEL（3762）0266
振込銀行　さわやか信用金庫大森支店
口座（普）0469459
発行　「城南の保健」編集委員会
毎月1回発行・定価1部　30円

晴天の下、800人が参加した 第13回 品川健康まつり

会場一体となって品川音頭を踊りました

健康チェックコーナーには大勢の人が

模擬店も賑わいました

5月23日(土)、13回目を迎えた品川健康まつりが、戸越公園で開催され、800人が来場しました。この日は晴天に恵まれ、ほどよい風も吹いて、とてもすごしやすい天候。健康チェックコーナーには、多くの方が立ち寄り、毎年人気の血管年齢測定は128人の方が受けました。血圧・体脂肪測定、骨密度測定、足指力測定、歯科チェック、尿チェックなど多彩な内容が定着してきたようです。

子ども向けのスーパーボールすくい、輪投げなどにも人が集まり、楽しんでいました。フリーマーケットも出店しました。

舞台では、今年はオープニングで誰もが知っているラジオ体操を行いました。多くの方が一緒にやってくれました。そして、おなじみのギター演奏、オカリナアンサンブル、花笠音頭、コーラスなど盛りだくさん。恒例の品川音頭にも会場からたくさんの方が一緒に踊ってくれ、最後は華やかな衣装で、子どもたちが一輪車の演技を披露してくれました。

健康チェックコーナーなどでの呼びかけにより、5人の方が保健生協に加入してくれました。

【福引き当選番号は2面に掲載しています】

—＊—＊—

熱中症に気をつけましょう

熱中症の発生は7～8月がピークになります。熱中症を正しく理解し、予防に努めましょう。

熱中症とは？

室温や気温が高い中での作業や運動により、体内の水分や塩分などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体がだるい、ひどいときにはけいれんや意識の異常など、さまざまな症状を起こす病気です。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、熱中症になる場合があります。また、子どもや高齢者はとくに注意が必要です。子どもは体温調節機能が未熟なため、熱中症にかかりやすく、地面の照り返しにより、高い温度にもさらされます。高齢者は汗をかきにくく、暑さを感じにくくなっているため、自覚がないのに熱中症になる危険があります。

熱中症を防ぐために注意すること！

- **こまめな水分・塩分補給**
  のどが渇いたと感じたら必ず水分補給
  のどが渇かなくてもこまめに水分補給
- **部屋の温度や湿度をこまめにチェック**
  室温が28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使う
  湿度が高い場所では汗が蒸発しにくく、熱中症になりやすくなります
- **外出するとき**
  体をしめつけない涼しい服装で、日よけ対策も
  帽子や日傘を着用
  無理をせず、適度に休憩を
- **無理な節電をしない**
  気温が高い日や湿度の高い日は適度にエアコンや扇風機を使用する

国民のいのちと生きる権利を奪う「医療保険制度関連法案」が強行採決

医療保険制度改革関連法案（持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律案）」は2015年5月27日、参議院本会議で自民、公明、維新などの賛成多数により強行採決されました。

成立した法律は、国民のいのちと人間らしく生きる権利を奪い、保険料の値上げ、患者負担増などが盛り込まれ、国民皆保険制度を解体に導く悪法であり、強行採決に断固として抗議するものです。

19もの法案が一括で採決され法案の「なかみ」もとてもわかりにくい。そしてマスコミでの報道もあまりされませんでした。何法案か紹介します。

- 国民健康保険の都道府県単位化→財政管理を都道府県に移行し市町村を保険料引き上げに駆り立てるものです。
- 入院給食の引き上げ→現行原則260円から460円に。
- 紹介状なしの大病院受診の定額負担→最大で1万円の定額負担。だれもがいつでもどこでも受診できる権利を脅かし、早期発見・早期治療を妨げることになります。

これらの法案の審議時間は参考人質疑をあわせても、衆議院22時間、参議院23時間程度で不十分です。審議では、与野党問わず法案に対する懸念が次々に出され問題点が明らかになりましたが、政府与党は「法案成立後に関係審査会等で詳細は決める」などと答弁しました。

私たち、全日本民医連に加盟する城南保健生協は、民医連綱領にある「人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります」の立場からも、社会保障充実のための運動を引き続き前進させていきます。

戦後70年―いま、戦争と平和を想う
原稿・声を募集します

いま、安倍政権は憲法をふみにじる「戦争法案」を強行しようとしています。今年は戦後70年の年です。この時期に若い人たちを含めて「戦争と平和」について想い、考えることは大切なことだと思います。悲惨な戦争体験や戦後の苦しい生活、「戦争法案」についての不安など、原稿や声をお寄せください。

- 原稿：200字から1000字
- 締切：10月末まで
- お名前、住所、年齢をご記入のうえ、下記にお送りください。
- 送り先：〒143-0012　大田区大森東4－6－15　サンマンション101

城南保健生協　機関紙編集委員会
（機関紙への掲載と字数調整は編集委員会にお任せください）

腹八分

「自分には関係ないよ」、こんな風に事に踏み込まないのが常に多数派でした。かつての日本が軍国主義の道を歩みはじめたとき、まず戦争に反対する勢力が弾圧されました。「自分には関係ないよ」の人びとは、軍国主義の危険を感じながらも黙っていました。それは、戦争推進勢力にとって都合のよいことでした。「自分には関係ない」は、戦争協力者と見透かされたのです。それが悲劇を拡大し、やがて日本の敗戦を招きました▼70年前、日本は生まれ変わろうとしていました。それまで臣民であった国民は、主権者として認められました。かつて天皇制・軍国主義を批判して弾圧されていた人びとも、自由にものが言えるようになりました。「自分には関係ない」の勢力だってその恩恵にあずかり、戦争反対で弾圧された人びとと共に、国の民主化をめざしたりしました▼でも、その時代は長く続くことはありませんでした。かつての軍国主義勢力が再び息を吹き返してきたのです。よく日本の憲法はアメリカの押し付け、と主張する人がいますが、日本の再軍備を押し付けたのがアメリカなのだ、というのが歴史の真実です。それなのに「自分には関係ない」は再び沈黙でした▼いま、急激な変化が起ころうとしています。大田区でも5月にピースパレードが行われました。そこには「自分には関係ない」の参加も目立ちました。

何か事が起きた場合その解決に関わるのが人間の本来の努めです。それなのに昔も今も、自分と今すぐ関わりのない場合